



Synergy Force MORIWAKI Club
Suzuka 4 Hours Endurance Road Race
鈴鹿4時間耐久ロードレース「シナジーフォース・モリワキクラブ」
メリッサ・パリス選手 & シェリーナ・モレダ選手
RIDERS: Melissa PARIS / Shelina MOREDA



アメリカ人女性ライダー2名を起用し、
「シナジーフォース・モリワキクラブ」鈴鹿4時間耐久ロードレースチームが始動!

モリワキは、2014年鈴鹿4時間耐久ロードレースにアメリカ人女性ライダー2名を起用し参戦することとなり、ここにその概要を発表できますことを大変嬉しく思います。メリッサ・パリス選手(アメリカ)と、シェリーナ・モレダ選手(アメリカ)は、7月25日(土)に決勝レースを予定している鈴鹿4時間耐久ロードレースに参戦致します。本プロジェクトのメインスポンサーに日本発のエナジードリンクメーカー、「シナジーフォースジャパン」を迎え、「シナジーフォース・モリワキクラブ」として二人のアメリカ人女性もチームと同等以上の高いモチベーションを持って過酷な耐久レースに挑みます!

開催場所が世界屈指の難易度を誇る鈴鹿サーキット国際レーシングコースであることに加え、灼熱の太陽のもと4時間の長丁場となるこの耐久レースは、日本のみならずアジア圏のすべての国内ライセンスライダー達にとっての文字通り登竜門。国際レベルの認知度と実力を評価される正念場。女性ライダー達のパフォーマンスを最大限発揮し、ファンの期待に応えられるよう努力して参ります。

シナジーフォース・モリワキクラブは、ホンダ CBR600RR にモリワキエンジニアリングの ST600 キットパーツを組み込む。パリス選手とモレダ選手が鈴鹿サーキットを走るのは昨日から開催されている合計数時間のスポーツ走行枠のみで本戦に挑むこととなりますが、ライダー達、そしてチームの目標は少しでも良い順位で鈴鹿4時間耐久ロードレースを完走することです。

チームストラクチャー:

チーム名: シナジーフォース・モリワキクラブ (ゼッケン 21 番)

チーム代表: 森脇 緑

技術監督: 高橋 宏史

マネージャー: 佐々木 迅

チーフメカ: 山本 琢磨

コメント:メリッサ・パリス選手

「今回の鈴鹿サーキットのスポーツ走行会に参加するのは、先週までスペイン選手権のレースに参戦していたこともあり、スケジュール的にも厳しい状況でしたが、何とか来日することが出来、まずは安心しています。と、いうのも、私にとっては初めての鈴鹿サーキットで、ピットアウトしてすぐに感じたことは、なんて挑戦的で難しいサーキットなんだろう、という印象だったからです。合計 22 個ものコーナーがあり、どれも簡単に攻略できるものではなく、今回の練習なしには到底レースペースで走行することは出来ないだろうと思いました。

テストが進むにつれ、徐々にサーキットにも慣れ始めたのですが、テスト当日の朝にスペインからのフライト





SynergyForce MORIWAKI Club
Suzuka 4 Hours Endurance Road Race
鈴鹿4時間耐久ロードレース「シナジーフォース・モリワキクラブ」
メリッサ・パリス選手 & シェリーナ・モレダ選手
RIDERS: Melissa PARIS / Shelina MOREDA



で時差ボケと移動による疲労との戦いで、いまは現実的にトップから 10 秒ほどのタイム差があることは自分の問題として真摯に受け止めています。私は合計で 2 日間のテストに参加する予定なので、2 日目までにはしっかりと体調を整え、元気いっぱいチャンスを生かしたいと思います。

レース本戦に向けては、鈴鹿の熱さとう向き合っていくのが大きな要素になると思っています。耐久レースの経験は多くないので、この鈴鹿 4 耐に向けて激しいトレーニングも積んできたのですが、どうも準備をすればすべてが順調に行くようなレースの過酷さではないようで、実際のレースで本当の厳しさを感じるようになると思っています。

最後に、このプロジェクトは FIM (世界モーターサイクリズム協会) が薦める「モータースポーツ業界における女性プロジェクト」の一環として実現したもので、色々なスポーツを経験してきましたが、モータースポーツは女性でも高い競争力を発揮できる数少ないプロスポーツだと実感しており、このようなプロジェクトに参加することで、今後、ピットに女性ライダーがいる光景が珍しくない日が来ることを期待したいと思います」

コメント:シェリーナ・モレダ選手

「モリワキのような名門チームとこのプロジェクトに参加できることを本当に光栄に思っています。ホンダもモリワキも当然アメリカで良く聞こえるブランドなのに、加えて FIM から今回のオファーを受けた時は本当に信じられませんでした。

私にとって、日本でレースをすることは夢でした。日本には過去に 1 年ほど暮らした経験があったので、日本は私にとってとても思い入れが深い国で、その愛する日本で、自分が一番好きなロードレースをすることが出来るのは、本当に夢のような話なのです。

テスト走行にメリッサと参加し、チームと合流することで、チームがどれほどプロフェッショナルかにまずは驚かされ、このような素晴らしい環境でレースが出来る機会に恵まれたこと、本当に感謝していますし、とてもいい気分で、何か大きな意味深いプロジェクトに参加しているんだなという思いを実感しています。

鈴鹿サーキットでの最初の走行で得た印象は、“なんなの、このサーキットは!!”でした。スピード域もとても高速で、私が経験したことのあるどのサーキットとも似ていない、本当に難しく、素晴らしいサーキットでした。アドバイザーとしてチームに協力していている世界屈指のライダー、高橋裕紀選手が、走行前に私に、“このサーキットは二つの特殊なサーキットが一つにくっついたようなサーキットだ”と教えてくれたことの意味が、コースに出ですぐに理解できました。正直、ひとつのセッションを終えた段階では、何が起きているのか頭を整理することすら出来ない状況でした。ホンダに乗るのも初めてだったので、サーキットにもバイクにも慣れることから始めているのですが、バイク自体はとてもバランスが良く、乗りやすいという印象です。ただ、最初のセッションで二つあるシケインを両方とも通り過ぎてしまったのはここだけの話です。二回目のセッションでは、一気に 4 秒以上もタイムアップし、徐々に鈴鹿サーキットにも慣れてきたと思うのですが、まだまだ先は長いです。

今回の鈴鹿 4 時間耐久レースは私にとって初めての耐久レースになります。初めてのことも多いのですが、でも、レース本戦をととても楽しみにしています」

END OF PAGE

